

報告ダイジェスト

・10/29 職員勉強会報告

(報告1)

・絆プロジェクト

(報告2)

報告1 スタッフ勉強会報告 『あなたは今、何に気づけていますか?』

10月29日(土)、7月に移転新設したばれっとの新しい拠点でスタッフ勉強会を開催しました。新たにグループホームも増設されスタッフも増えました。キャリアの違いから、意思疎通の難しさや意識のずれ等、仕事の優先順位やその向き合う姿勢、温度差を埋めるべく企画した勉強会、良い人間関係を維持しながら効率よく仕事を進めるにはどうしたらよいか、仕事の中での「気付き」をテーマにスタッフ総勢19名が参加しました。

●「気付き」を仕事にどう生かすか

抱えるスタッフが増えたことにより、お互いのコミュニケーション不足から、仕事の効率が低下し、人間関係にまで影響を及ぼすケースが増えてきます。「自ら気付くこと」で、スタッフ一人ひとりが日常的にどう動けば業務の効率化が図れるのか、セクション内に留まらず、組織としての方向性を、スタッフ一人ひとりにどう意識付けしていけばよいのか、或いは自覚を促すのか。全ては、「気付き」からはじまることだと確信し、今回の勉強会に至ったのですが、私自身、「気付き」には2種類あることに気づかされました。自ら気付く場合、これは、普段から疑問に思うことがないと気付かない種類です。もう一つ、相手に気付かせる場合があること。しかし、何れも

意識的に発信しない限り気付きの共有は図れないこと。共有が図れることによって仕事の効率化が図れ、相互理解につながるものが最終的には整理されました。しかし、この共有も信頼関係の上に成り立っていることです。

●信頼関係を築くには・・・

どのグループからも、コミュニケーションというキーワードが出ていました。「声をあげる」「表に出す」といった、発信をするにも、出す側・受け手側相互の信頼関係が成り立った上でないと難しいという意見に帰着していました。それでは、信頼関係を築くにはどういったプロセスが必要なのでしょうか。これは、スタッフ同士に限ったことでは勿論ありません。通所員や利用者、親との関係もあります。こうしたテーマで1月に再度勉強会を開きます。以下、各セクションスタッフからの感想です。こうした勉強会の機会は、有意義であり必要性を感じています。

(理事長 相馬宏昭)

●しぶや・ばれっとホーム

職員 佐々木志保(4年目)

全スタッフが顔を合わせての勉強会、人数が増えたからこそ必要であると感じました。普段なかなかゆっくりと話ができない他セクションのスタッフとのグループセッションは、相手の考えや仕事に

対する想いを聞くことができ、共有できたように思います。不安に感じ悩んでいたことが自分だけではなかったんだと感ずることができ、また自分にはなかった考えを聞くことができ、とても有意義でした。

おかし屋と事務局の移転、グループホーム開設があり、バタバタと毎日の業務に追われるだけの日々には私自身はなっていて、正直周りのスタッフ1人ひとりとじっくり向き合えていなかったように思います。色々な経験をし1人ひとりの個性が強いスタッフが集まるぱれっとですが、お互いの理解、信頼関係がなければチームで仕事をするのは困難です。日々のやりとりはもちろん、今回のような各セクションの枠をこえた勉強会を通してよりお互いを知り、相互理解を深めていかれたらと思います。

●おかし屋ぱれっと

職員 松本亜沙子(1年目)

勉強会では主に“自分の強みは何か”“仕事をする上で大切なことは何か”について皆さんと話し合いました。後半の、グループに分かれての話し合いが進み、他セクションの職員の方から色々な意見を聞き、自分も同じように発言していく中で「NPO法人として社会にどのようなことを発信していくのか」という話題になった時に、“障がいがある人達がどのような仕事や生活を送っているのかなどをできるだけ多くの人たちに伝えていきたい”という自分の想いが増していることに気づきました。そのためには私自身が障害者福祉の世界についてもっと勉強していかなければならないと考えるようになりました。当たり前のことですが、勉強会を通じて改めて「報告・連絡・相談」の重要性に気づきました。特にそれは、メンバーのことについての報告・連

絡・相談です。どんなに些細なことであっても、疑問を感じるがあったらそれを自分の中で燻ぶらせずに、なるべく早く周りの職員に発信していこうと思いました。普段仕事をしている中で皆さんがどういう思いを持ってどんな姿勢でメンバーと向き合っているかを聞ける機会はなかなか無いので、貴重な機会を頂けました。

●たまり場ぱれっと

職員 吉岡悠真(1年目)

「効率」と「質」、この2点がとても大事だと改めて気付きました。効率を重視することが大事であるのは、当然のこと。ただそれだけに意識が向いて、例えばあえて「デジタルでなく直筆でしたためる意味」であったり「自分の仕事が忙しい中でも集まりに参加する意味」。こういったことは、その先の企業など外部との繋がりや問題解決の手がかりを得られるきっかけにもなります。それはすなわち、結果的に業務の質を高めることであるということです。効率と質が両方とも向上することが一番望ましい。そう考える中、人とのつながりや関係性が、各方面でとても重要視されるぱれっとの活動・業務において、改めて効率と質を意識して一つ一つの業務を進めていくよう心掛けたいです。

全体の感想として、同じぱれっとの職員でありながら、普段なかなか接点のない各セクションの人たちと一同に交流ができたことはとても良かったです。職員同士の交流機会をはかることで、お互いの人となりを理解すること。それが専門的でないざっくばらんな交流であろうと、今後のやりとり、連携を図る上で大切であると思いますし、スムーズに事が進めたりと結果的に効率化にもつながっていくと思います。